

『深掘り誕生石』

奥山康子 [著]

築地書館
発売日：2023年7月
定価：2,400円（税別）
ISBN：978-4-8067-1654-9
四六判並製
カラー口絵8ページ＋256ページ



誕生石を目にするのはどこであろうか。多くの人が目にする機会が多いのは、実は自然系博物館であるかもしれない。自然系博物館の岩石・鉱物の展示コーナーには、誕生石が展示されていることが多い。著者が以前所属していた地質標本館にももちろん展示されている。きれいな色や輝きに目を奪われ自分や家族の誕生石を探すなど、いつでも人気の展示のひとつである。本書は63年ぶりに改定された誕生石について、科学的な側面からアプローチしている。一般的に誕生石は一年の始まりである1月から紹介されることが多いが、本書は第一章「春」の4月から始まる。季節をめぐりながら第四章「冬」で12月を迎え、そして終章「春めぐり来て」で3月と、一年を渡っていく。季節と共に話が進んでいくところに新鮮さがあり、著者の豊かな表現あふれる文章から情緒を感じ取ることができる。

各章では誕生石ごとに鉱物名の由来、産地、化学組成、結晶構造等が詳しく紹介されている。なお、生物由来の真珠・サンゴについては本書では取り扱っていない。自分の誕生石や好きな誕生石から読むのも良いだろうが、内容によっては先に紹介されているものにつながる場合もあるため、順を追って読んでいくことをすすめる。また、本文にある鉱物写真は白黒のため、巻頭にあるカラー口絵で色

を確認するのが良いだろう。宝石は色が重要な要素であるが、本書では化学的な説明に大部分を割いている。そのため、周期表が理解できる年代からでないといく内容は少々難しく感じるかもしれない。

地質標本館の来館者から鉱物についてよく聞かれる質問は、「どうやってできたのか」「どこで採れるのか」「なぜこの色をしているのか」等である。本書は前述のような質問をほとんど網羅している内容となっている。本書を通して、誕生石についての科学的な理解をより深めてもらえるだろう。

本書を読んだあとには、是非実物を愛でに地質標本館へ来館して頂ければ幸いである。ちょうど誕生石コーナーがリニューアルし、改定時に追加された誕生石も展示している。著者がこよなく愛する天然の結晶はもちろんのこと、宝石としてカットされたカットストーンの両方が楽しめる。

(産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター

中村由美)